

通信小海

人命ひとつ五十円

牧師 水草修治



『永遠のゼロ』という本を読んだ。三十歳の姉と二十代半ばの弟が、特攻隊で死んだという祖父がどういう人であったかを、戦友たちの証言を聞いて回って、探って行くという話である。戦後六十年たって老いた戦友たちは、胸に秘めていた戦地での体験を語り始める。

我が国の司令部・高級参謀たちは、前線で戦う兵士たちを「消耗品」としか見ていなかった。戦闘機や軍馬は高価だから大切にされたが、兵隊は葉書一枚一銭五厘でいくらでも補充できると粗末にされた。今なら人命ひとつ五十円というわけである。しかし、兵士一人一人には妻子や父母や恋人がいたので

◀今月の御言葉▶

「彼らはその剣を鋤に、その槍をかまに打ち直し、国は国に向かつて剣を上げず、二度と戦いのことを習わない。」イザヤ書

ある。

零式戦闘機（ゼロ戦）には搭乗員を守る背面防弾板がなかったが、米軍機にはゼロ戦の七・七ミリ機銃を百発受けても突き通せない背面防弾板があった。またゼロ戦搭乗員は帰還不能となったら敵艦に体当たりを命じられていたが、米軍は空襲してくるときにも、同時に潜水艦を派遣して、戦闘後、海面に不時着した搭乗員を救出して帰った。結果、米軍搭乗員は錬度を上げ、日本軍は熟練した搭乗員を早々と失い、自滅していった。

ガダルカナルの砂浜で負傷した陸軍兵士の話も悲惨だ。米軍が圧倒的な砲火を浴びせて後、上陸すると、死傷し戦闘不能となった日本軍の兵士たちが砂浜で倒れていた。が、彼らは捕虜となることを拒み、近づくと手榴弾で自爆して危険なため、やむなく米軍は彼らを戦車で踏み潰したという。なぜ日本軍はこんなにも兵士の命を軽ん

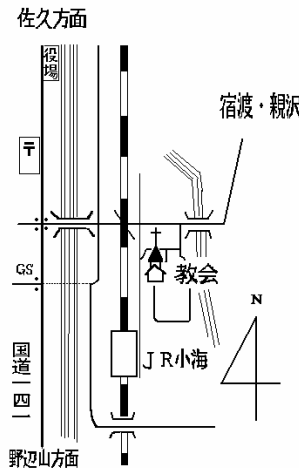
日本同盟基督教団小海キリスト教会 牧師 水草修治

会堂・牧師館 南佐久郡小海町大字小海四三三五 二七

千三八四一一二 二六七九二四七七六

カンパ宛先〒振替005300 61683

見晴台の教会へどうぞ



集会あんない

日曜日 サンデースクール 午前八時四五分

朝礼拝 午前十時から十一時半

夕礼拝 午後八時から九時

水曜日 祈り会 午前十時半と午後七時半

*海尻・川上で毎月家庭集会あり。

*個人的な聖書勉強や個人的なご相談にも乗ります。

じたのか。「死八鴻毛ヨリモ軽シト心得ヨ」という軍人勅諭と、「生キテ虜囚ノ辱メヲ受ケズ」という戦陣訓による愛国教育の結果である。教育勅語と軍人勅諭こそ「美しかった日本」の精神的支柱だった。

では、机上で立てた無謀な作戦実行を命じ、戦い敗れた兵士たちに降伏を禁じ、玉砕つまり全滅を強要した司令部のエリートたちはさぞかし勇ましい軍人だったのだろうか。いや、彼ら軍事官僚たちの振る舞いには、出世目当ての保身的な態度が目立つ。彼らにとって、兵士の命は鳥の羽根、己が出世は値千金であった。

昨年末、自衛隊法が改変されて、海外活動が自衛隊の通常任務とされ、防衛庁は防衛省とされた。今、憲法改正のための国民投票法案が論じられている。青年たちの「愛国ブーム」に注目した改憲派は、投票年齢を十八歳以上と引き下げたいらしい。もし改憲派が国民投票で過半数を取れば、事實上、平和憲法は命を絶たれる。改憲後に続くのは、米軍の戦争への武力による加担である。改憲の主なねらいは海外戦争であって国防ではない。

国民投票法が成立すれば、危機的状況である。しかし、チャンスでもある。「押し付け憲法」と揶揄されてきた憲法を、自ら選択した憲法として獲得し直せるからである。おとなたちは、子孫たちとこの国の将来をよく考えて、責任ある投票をしたい。人命一つ五十円という時代を再来させぬために。

「彼らはその剣を鋤に、その槍をかまに打ち直し、国は国に向かつて剣を上げず、二度と戦いのことを習わない。」イザヤ書



海尻家庭集会

二月八日(木)と二十二日(木)夜七時半から九時、井出博彦さん宅で、聖書を読む会をします。ご一報くださってお越しくください。

96 2534

南相木でも家庭集会

* 二月十五日木曜夜七時半から九時
* 日向中島悦子さん宅です。

* 家庭集会には牧師夫婦がでかけ、聖書を読んだり賛美歌を歌ったりします。近くから遠くから、どなたでも気軽にどうぞ。

* 支援物資発送用箱をいただきました。感謝！

支援活動報告の集いにごとぞ

長期失業者(ホームレス)に対する炊き出し支援として、佐久広域から余剰米や野菜などの提供を生産者から募り、送り届ける活動を99年から展開する山谷(やま)農場。ゼーフティインターネットからこぼれ落ちた人たちが集まる炊き出しを通して「格差社会」など、現代社会のゆがみを考える現場報告。

2月24日(土)午後1時〜午後4時

長野県佐久勤労者福祉センター

(JR佐久平駅並び)第2文化教養室(和室)。

* 参加費無料。

山谷農場事務局(藤田 寛)小海町芦谷

ヒルサイドコーポ一 二号室毎週金曜・土曜は

あります。電話090・1436・6334

〒970-0422・7866・2088

メール nyoro@beige.ocn.ne.jp

カンパニ振替 一四 四五三七九六

嵐の中の小舟



ある日のこと、イエスは弟子たちといっしょに舟に乗り、「さあ、湖の向こう岸へ渡ろう。」と言われた。それで弟子たちは舟を出した。舟で渡っている間にイエスはぐっすり眠ってしまわれた。ところが突風が湖に吹きおろして来たので、弟子たちは水をかぶって危険になった。

そこで、彼らは近寄って行ってイエスを起こし、「先生、先生。私たちはおぼれて死にそうです。」と言った。イエスは、起き上がって、風と荒波とをしっかりとつけられた。すると風も波も治まり、なぎになった。

イエスは彼らに、「あなたがたの信仰はどこにあるのです。」と言われた。弟子たちは驚き恐れて互いに言った。「風も水も、お命じになれば従うとは、いったいこの方はどういう方なのだろう。」

ルカ福音書八二二 二六

「さあ、向こう岸へ渡ろう」とイエスは弟子たちをいざなわれる。弟子たちのうちの元漁師たちにとって、舟は慣れたものだった。しかし、イエスはこの舟旅で弟子たちの信仰の訓練をしようと計画しておられたのである。

照りつける太陽。穏やかな波。イエスとも枕してぐっすり眠り込んでしまわれる。伝道生活を始めて以来、町々村々から多くの群衆がイエスのもとに押し寄せて、イエスはほとんど休む間もなく彼らを教え、彼らの病を癒して来られ、疲れておられた。

ところで、ガリラヤ湖は気象の変化が激しいことで知られる湖である。照りつける太陽に水蒸気が昇った所に、北のヘルモンの高峰から冷たい空気が湖面に吹きおろして来ると、大気が乱れてにわかには嵐になる。この日もそうだった。先ほどまで穏やかだった湖面は吹き降ろす突風に白くあわ立ち、大波が舟に襲い掛かり、舟はもみくちやにされてしまふ。弟子たちは、必死で水をかき出し、何とか沈没を防ごうとするけれど、かき出すよりも流れ込む水の方が圧倒的である。死の恐怖が弟子たちに襲いかかる。

しかし、こんな嵐のただ中で、イエスはなおぐっすり休んでいらっしやる。イエスにとつては、大波に翻弄される舟はゆりかごなのだろう。父親に高くほり上げられて、またぎゅっと抱きしめられて赤ん坊がキャッキヤツと笑つように、神の御子にとつてはガリラヤ湖の嵐も一興だった。

しかし、弟子たちはイエスをたたき起こして叫ぶ。「先生、先生。私たちは溺れて死にそうです！」

主イエスはやおら立ち上がると、「黙れ。静まれ。」と、ことばで嵐を静めてしまわれた。神は、創造の始めに「光、あれ。」とことばをもつて光を造り、ことばをもつて海も陸地も動植物も造られた。イエスの「黙れ。静まれ。」は、無から万物を造られた、あの権威あることばである。

人生の中、嵐の海を渡らねばならぬときがある。今が、そのときかもしれない。たとえ嵐でも、もしあなたの舟の中に主イエスがともいますならば、何も恐れる必要はない。おしまふ必要はない。あなたの人生の小舟に、主イエスはともに乗っていらっしやるだろうか。

「幸福な家庭」

小さい芽のうちに



「ウエーン。お姉ちゃんがあたしをぶつた！」と娘が母親に訴えます。母親は言います。「お姉ちゃん。妹をたたいたいちゃだめですよ！」すると姉は「丸子が、私の大事なプーさんのノートを取ったの。どんなに私のだと言っても返さないからよ。」

お母さん。こんなとき、どう反応しますか。これは丸子ちゃんがその後どんな人生をたどるかを決めてしまつ、とても大事な出来事です。

もしお母さんが丸子ちゃんを「丸子には別に買ってあげたお花のノートがあるでしょ。お姉ちゃんのを取つちゃだめ。」と叱り、「姉ちゃんのもの取つてごめんさい。」と謝らせ、つぎに、お姉ちゃんには「丸子、たいてごめんね。」と謝らせることができれば、丸子ちゃんは人生における大事なことを学

習したのです。人のものを欲しがってはいけないし、盗んではいけないという戒めです。けれども、もし、お母さんが、丸子ちゃんのがままに負けて、あるいは忙しくて面倒で、お姉ちゃんに対して「丸子があんなに欲しがっているんだから、そのノートを上げなさい。おまえにはお母さんがまた別のいいのを買ってあげるよ。」と言ったらどうなるでしょう。丸子は何を学習するでしょう。

彼女は、この出来事を通して、自分が欲しいなら人のものでも奪い取つてよい、盗んでも良いのだということを学習したのです。また泣きわめけば、親も私の言いなりになるということを学習したのです。親がそう教えたのです。これは大変なことです。

なぜなら、小さいときには、プーさんのノートですむかもしれませんが、だんだんと成長するにしたがつて、丸子ちゃんは大きなものを欲しがるようになるからです。あの人の持つている靴が欲しい、あの子の持つている靴が欲しい、あの人の指輪が欲しい、あの人の夫が欲しい……。しかも自分にはそれを得る権利があるのだと思ひ込んでいます。丸子さんは人をねたむ人生を送るか、へたを

すると窃盗・姦通・詐欺をするかもしれない。聖書には「十戒」と呼ばれる人間の生き方の基本であるたいせつな戒めが、教えられています。その第十番目には、次のように書かれています。

「あなたの隣人の家を欲しがってはならない。すなわち隣人の妻、あるいは、その男奴隷、女奴隷、牛、ろば、すべてあなたの隣人のものを、欲しがってはならない。」

「小さな子どもということだから、そんなにムキになることはない」と言う人がいます。いいえ。小さな子どもが言うことだから、たいせつなのです。畑に生えてきた雑草だつて、小さな芽のうちに摘んでしまえばどうということはありません。けれども、放置しておけば、やがて大きな草になり、さらに花を咲かせ種をばらまいて、手のつけようがなくなるでしょう。

人の心には、小さな子どものうちにも、罪の種があります。いわゆる原罪です。それが小さな芽を出したとき、摘んでやるならば、その子は将来、快適に生きて行けるでしょう。そうしないと、たいへんなことになりま。お父さん、お母さんしっかり頼みます。